



日本損害保険協会様より軽消防車が寄贈されました



令和8年1月28日、日本損害保険協会様より寄贈いただいた小型動力ポンプ付軽消防自動車が納車されました。

これは、全国離島振興協議会を通じて、日本損害保険協会が全国の離島を対象に、毎年度実施している寄贈事業です。

寄贈車両は魚島方面隊（高井神）に配備し、火災発生時の迅速な消火活動に活用いたします。

寄贈して下さった日本損害保険協会様に深く感謝し、大切に運用させていただきます。

「災害から地域を守る！」消防団対象のチェーンソー講習を実施しました



消防職員による講義を受講



メンテナンス研修



実技による技術の習得

労働安全衛生規則では、チェーンソーを使用し、伐木・造材等を行う場合は特別教育の受講が義務付けられています。

災害等が発生した場合、消防団員の方もチェーンソーを使用する機会があるため、令和8年2月8日（日）に各方面隊から参加した消防団員を対象に特別教育を実施しました。

当日は、消防職員が講師として指導し室内講義の後に、荷重がかかった樹木の安全な切り方から、安全な刃の目立て（メンテナンス）など、実践的な知識と技術を習得することができました。

令和7年度 愛媛県消防長会 県下救助隊合同訓練

令和8年2月17日（火）、「今治市震災対応訓練施設」において県下合同救助訓練が実施されました。

この訓練は、大規模震災発生時において、消防の使命である生命・身体及び財産の保護並びに被害の軽減を、安全、確実、迅速に遂行するため、県内消防本部救助隊相互の連携強化を図るとともに、震災対応に必要な知識および救助技術の習得・向上を目的として実施されています。

上島町消防本部からは、池本隊員と大林隊員が参加し、救助技術や連携の重要性を学びました。

令和8年2月出動件数 (令和8年2月28日現在)

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R8累計
火災	0	0	0	0	0	0	0
救急	13	6	9	1	0	29	62

上島町消防署 ☎77-4118
上島町消防本部 消防防災課 ☎77-3166

共に守ろう、大切な人とふるさとを
消防団員絶賛募集中!



植物の病名に「かいよう病」と称される病気はいくつかあります。カンキツやトマト、キウイフルーツなど細菌（バクテリア）により葉や茎（枝）、果実に斑点を生じる病状の総称として命名されています。今回は、身近な作物のカンキツかいよう病について解説します。



レモン果実のかいよう病

1 品種による病害の抵抗性

カンキツ類では品種によりかいよう病に対する抵抗性が異なります（表1）。抵抗性の強い品種では基本的に防除は不要ですが、中〜弱の品種では防除が必要です。

表1 カンキツかいよう病の抵抗性

抵抗性	カンキツ類品種名
強	温州みかん、八朔、ユズ
中	はるみ、不知火、せとか、甘夏柑
弱	レモン、愛果第28号、甘平、はれひめ、たまみ、伊予柑

2 かいよう病の感染条件

①病原細菌
病原菌は病斑中で主に増殖し、土や雑草等表面にもわずかに生息しています。

②感染条件
細菌は粘着物質で覆われているため水に溶けなければ飛散しません（空気伝染はしない）。要するに雨が降らなければ発病は起こりません。また、病原菌の感染経路は、柔らかい葉や果実では気孔という呼吸器官から菌が入る時期がありますが、最も感染頻度が高いのは強風等による葉擦れでできる傷口（風速7m以上で増加）やミカンハモグリガ（エカキムシ）の食害痕からです。

強風十雨が揃う気象条件（台風や発達した低気圧の通過）により発病が増加します。

3 防除対策

①発生源の除去
主要な伝染源の病斑を取り除くことが重要ですが、完全に除去することはできません。夏秋梢（かしゅうしょう）はミカンハモグリガの被害を受けやすくよく発病します。夏秋梢の発病枝が翌年（春）の主要な伝染源となるので発病枝は12月頃までに枝ごと除去します（園外に出す）。

②発病条件の緩和

風当たりの強い園では防風網や防風林などの対策を行い、風当りの強い園地には、かいよう病が出やすい品種の作付けは行わない。

③農業による防除

昔から、かいよう病などの細菌（バクテリア）には銅が成分の農薬が広く使われてきました。現在でも銅剤の効果が高くて高く、ICボルドー66DやムッシュボルドーDなど使われています。予防効果が主体のため主要な感染期の前に散布します（表2参照）。銅水和剤は高温期の散布で

表2 カンキツかいよう病の防除体系例

時期	必須(重点)防除	応急(多発時)防除
3月 上旬 中旬 下旬	発芽直前 ICボルドー66D 40倍	
4月 上旬 中旬 下旬	開花前 ムッシュボルドー1000倍	
5月 上旬 中旬 下旬	開花後 ムッシュボルドー1000倍	
6月 上旬 中旬 下旬	梅雨入り ムッシュボルドー1000倍	
7月 上旬 中旬 下旬	梅雨明前 ムッシュボルドー1000倍	
8月 ~ 10月 台風 襲来 前	強風雨前 ムッシュボルドー1000倍	夏秋梢の除去

薬害が発生しやすいので高温期には薬害軽減剤の炭酸カルシウム（商品名・クレフノン）200倍を混用します。また、ICボルドーは強アルカリのため他農薬との混用や近接散布（2週間以上）すると干渉による効果低下などが起こるため、他農薬との近接散布や混用する場合はムッシュボルドーDを使用します。近年、台風の接近が少なく、かいよう病の発生は減少傾向ですが、病気が完全に無くなった訳ではないので抵抗性の弱い品種では、必ず予防散布による対策を行います。